

花高野球部通信

発行日
令和6年7月25日
第40号(監督)

第106回全国高等学校野球選手権大会 岩手県大会

初戦 対 釜石高校 1対0 勝利

7月14日(日) きたぎんボールパーク

2回に相手から押し出しの1点をもらうもその後が続かず。毎回ランナーが出塁し好機を作るも、次の1点が遠かった。ダブルプレーや走塁ミス等、相手に流れを与えないことを意識した攻撃はできた。守備においては、先発の佐藤夢月を中心にノーエラー、相手に一度も三塁を踏ませず9回を守り抜いた。佐藤夢月も3安打完封。

二回戦 対 久慈高校 1対10 敗北

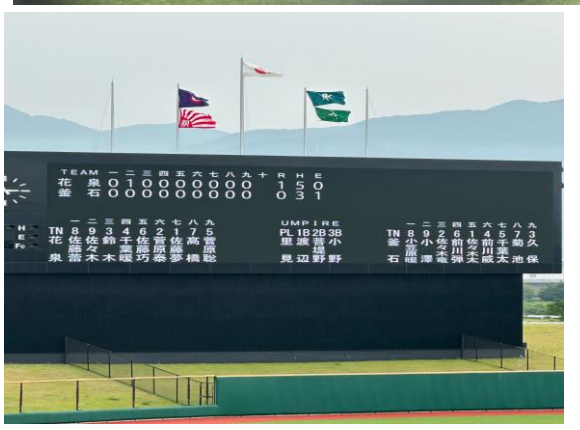
7月17日(水) 花巻球場

初回から長打を受け0対1のスタート。2回は0点に抑えるも、3回に相手の猛攻を受け0対7。花泉高校も千葉暖大のタイムリースリーベースで1点を返すがこの1点止まり。花泉高校は4人の投手が登板し、14人が出場した試合となったが、7回で力尽きコールドゲーム。

総評

昨秋、7エラーで負けた新人戦からここまで、選手達は日々の反復練習、個別練習に尽力し、最後の大会をノーエラーで勝利を収めたことに選手の成長を感じる。また、春の大会以降は逆転負けが続いており、夏までの1ヶ月半多くの課題を諦めずに解決に向けて取り組んだ。夏直前の練習試合で1対0のゲームが出来き、やってきたことが自信につながって大会に臨めたことも大きい。

2試合ともにナイスゲームでした。選手を誇りに思う。



3年生へ

2年4ヶ月花高野球部員として共に成長できたことをうれしく思う。君たちは中学校時代、控えの選手や自分に自信を持ってない選手だった。それがこの期間で大きな成長を遂げた。嬉しかったことよりも辛く苦しい時の方が多かっただろう。その経験が糧となり、ここまで頑張ってきたのは君たち自身の心の強さだと感じる。また、人間的にも素直で前向きな子達。一緒に高校野球ができて本当に幸せでした。
ミーティングで君たちに伝えていた「野球を失った後に残っているものが、野球で得たものだ」という言葉。今君たちに残っているものは何だろうか。引退してからも気持ちの良い挨拶が飛び交い、進路に向けて粘り強く頑張っている姿。是非、野球で得たものを今後の人生に繋げてもらいたい。
2年4ヶ月お疲れさまでした。有難う。